Graded Direct Method Association of Japan

News Bulletin

第31号　英語教授法通信　1979年6月1日

編集・発行・GDM英語教授法研究会　事務局 〒154 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19吉沢美穂方 TEL.(429) 5929

Basic English のむずかしさ

室　勝

考えてみると，今までに，ずいぶんいろいろなところで，Basic English について話をしたり，書いたりしましたが，いつでもだいたい，Basic English はこういうものであるという，まあいわば，たてまえ的なことをいろいろな角度から説明して来たように思います。

ここでは，そうではなくて，もっともっと，わたしたち日本人にとって，それからBasic のむずかしさにもふれて，できたらほんねをはき出して少し書いてみたいと思います。

Basic がやさしいというのは，けっしてうそではありませんが，かなり割引して考えなければならないことは，少しBasic を勉強してみた人なら，誰でも気がついていることでしょう。このことにはOgden自身の考えの甘さがあり，そこから出た彼の宣伝文句に責を負ってもらわねばなりません。インドユーロピアン語族の間のことが大きく彼の頭にあったことはたしかなようです。彼がアジアやアフリカを念頭において，Basic English のことを考えていたことも初期の彼の文書でわかりますが，はじめて英語を外国語として学ぶ，英語にとっての外国人の例としてだけ考えていたようで，アジアの，またはアフリカの，どれか一ヶ国語でも勉強したことがあるという証拠は見つかりません。11，2才までの間にこういう地域で母国語が概念形成の枠をはきりと形作ってしまっている者にとって，full English の核をなしているといってもよいBasic のむずかしさは大きいものです。例をあげると基本的動作語の使い方，前置詞，冠詞の用法，名詞的表現の多用などです。これらはそれぞれ英語使用共同体の人にはまことにやさしいことでしょうし，仏・伊・独などの人たちにも本質的むずかしさは感じないのではないでしょうか。語数が850であることは，記憶の労をはぶいてくれるのですからたしかにやさしさの要素にはなっていますが最後にあげた名詞的表現(nominal expression)は，full English，特にBasicの大きな特徴となっていて，これは，動詞使用によって表現することになれている日本人には相当な重荷になることは明かです。

そもそも技能というものは――言語を用いることももちろん技能の一つですが――その技能を発揮する材料が少なければ少ないほど，そのことが技能を磨き，その技能に上達する挺また必要かくべからざる要素となるものです。大小さまざまな筆が何十本もあっては，筆をたくみに使って，さまざまな感じ，すがた，かたちを表現する技術を磨く可能性はうばわれてしまいます。日本画のある派の人た

ちが，たった一本の筆と，墨だけで，どれほど多くの形状と感じと，深さを表現してみせてくれるかを観察した人もあることと思います。わたしもそういう場にいて息をのむ思いでその技能のたしかさに驚嘆したことがあります。

急に話が画のことになったりして，この文を読んで下さっているかたは，また室の連想の走りすぎにうんざりしたかもしれませんが，これは，Basic のむずかしさ——語の少ないことからくるむずかしさ——は，まことに貴重なものであり，これこそfull English に練達するすぐれた入口であることを，例をあげて示したかったためです。

動詞がたった16しかなければ，これをどうかして，他の語（前置詞・名詞・形容詞等）と英語らしく（文法的慣用的に）連結するすべを考えなければなりません。われわれの創造力と想像力を力いっぱい動員して，そのわざを身につけるようにしないわけにはいきません。これは苦しいことであると同時に楽しく，何よりも価値のあることです。このときに，わたしの実感では日本人として，日本語でつちかわれた一種の言語 competence がたしかに働いていることに気がつきます。これは，日本語で英語を考えるというような皮相なものではなく，どこか深い深い奥の方で言語として成り立つかどうかを感じとるというようなもので，このことは，とても，歯ぎれのよいことばで説明などできません。どうやらChomsky さんに頭をさげたようなかっこうになりましたが変なものです。このことはいつかもっと深く考えて，書くことができたら書いてみたいと思っています。外国語をある程度学んだあとでは，母国語によって養われた言語competence はけっして外国語の知識を深め，またはこれを用いる技をみがくときの邪魔にはなりません。しかしこのことは，たいへん微妙なことで，表面的な英文和訳や和文英訳の方法ととりちがえられるとこまります。意外なところで，英語と日本語の共通点が表面にあらわれてきたり，深いところで正しい英文はこれだという確信を，日本語を通しての言語competence が，持たせてくれたりします。

話がまたわきへそれたようですが，結論めいたことを言うとすれば，英語らしさの核を持っていると思われるBasic Englishのむずかしさが，そのままわれわれ日本人に英語のgenius を感得させてくれ，英語使用の技能を磨くまたとない機会を与えてくれているということです。

English
Through Pictures

SBS（株）スクールブックサービス

〒160 東京都新宿区高田馬場1－26－5
FIビル 4階
電話 03－200－4531

Textbook I with 1st workbook	700円
Textbook II with 2nd workbook	700円
Textbook III	700円
Recording Series I and II	各 8,600円
Film strips I	10,500円

小学生，GDM英語教育における評価研究
―テスト問題作成の視点とその具体的実施方法―

KYEC，小学生英語科
GDM評価研究会

評価研究で最も力点を置いたところは，“テスト問題作成の視点とその具体的実施方法”である。私達は普段の授業でまず，Listening，Speaking，Reading，Writing の4技能を総合的に学習するようTeaching planを立てて指導しているが，これらが果してどれだけ学習されたか知るため，4技能を測定する問題を考察した。研究の過程で，過去において十分なSpeaking testを実施していないことが明らかになった。そこでSpeaking test について考えた結果，既習の言葉を含めて，Testing point を中心に，situationに応じて使われているか，speed，rhythm，intonation，pronunciation はどうか，さらに文の羅列ではなくまとまりのある内容かどうかといったことをSpeaking testの視点とした。具体的な方法として，①普段の授業をrecordingする。②教師とobserver が教室に入り授業の後でSpeaking 能力を評価する。③生徒にpicture を見せ自由にspeakingさせたものをrecordingする。④教師あるいは生徒がactionをし，そのactionの内容をspeakingさせ，recordingする。などの方法が考えられる。①の場合，教師の主観に片寄らないよう注意が必要である。

週2回で，EP30ページを終えた1年目の3クラス（4，5，6年で）同じテストを行なった。方法は1枚の紙に18ページ以降のTeaching itemをTesting point としたpictureを見せ，自由にspeaking させたものをrecordingした。結果，4年生の習得度は50%で，テスト問題に1枚のpicture の中に全てのTesting point を含めては正確な習得度が計れないことがわかり，Testing point を数枚に分けて見せる事が効果的であることに気付いた。反面，6年生になるとstructure wordsをほとんど使ってspeaking している生徒もみられた。母国語においても口数は少なく，書く方が好きな生徒など，性格的な差も見られ，同じpictureでWriting testをした結果と比べると顕著に個人差が表われている。recordingを意識して緊張が高まり普段の実力を出せないことが往々にあり，授業中においてもtapeを利用するなど普段から習慣をつけることが大切である。さらに2年目，5年生のクラスでは，教師がaction をして生徒がspeakingする，という方法で行ったが，普段の授業で行っていることであり，test だからといって異和感がないこと，さらにpictureを見てspeakingする場合と比べて，反応してくる相手がいることからか生徒の発言も多く，クラス平均85%というより正確な習得度を測定することが出来た。一方この方法では，教師のactionがclear であることが大切である。

以上のテスト問題が果して適当であったかどうか検討の余地もあるが，問題，方法，どちらに関しても学年，進度，生徒の質などを考慮し，クラスに合ったテストをすることが重要である。今回はSpeaking test に焦点を合せて述べたが，その他3技能についても研究を進めて来ている。それに合せて，テストの結果の処理とその利用の仕方についても研究を進めている。

文責：　加納　貴美枝

GDMの魅力

安西聖雄

2年前の御殿場セミナーに参加して，I，Youを「自分の」ことばとして「話し」た，全く新鮮な経験は，それ以前にはないことだった。素直に感動をおぼえた。それは，自分で体験すれば納得のいくことでしょう。私はその時，これこそ探していた教え方・学び方だと閃いた。私は新設の普通高校で，色々の教材も出来る限り変化にとむ工夫をして導入してきたのですが，生徒の学習は概して受身です。言葉を使うには主体性が第一なのに，この主体性の欠如をどうしたものかと考えてきていました。GDMは，今までになかったとっておきの処方箋を与えてくれたようです。

早速，放課後希望者を対象に，また一学期の初めのひと月，実験的にEPのp. 30ぐらいまで授業を試みました。私自身が未だGDMをよく理解していなかったり，英語の理解が不十分であったりで，これを克服することが第一に必要であることを前提にして，今のところの生徒の様子を記してみます。

多少出来るといわれる生徒を真にこの授業にとりくむにはどうしたらよいか。つまり，本人は出来るつもりでいるのに，発話するとなると，出来ないといわれている生徒よりもできない場合がある。にもかかわらず，できるつもりでいるようです。

GDMは，英語しか使われないし，対話の要素もあるので，生徒の中には，会話は必要だからGDMはいい方法だ，と言う者がいます。これは，動機づけとして利用すればいいのではないでしょうか。自分で主体的に英語を使うことが眼目なのでしょうから。

英語や内容はやさしいのに，言おうとすると言えないという生徒が多いようですが，これも大切にしていきたい，生徒の対応だと思います。

（神奈川県立新羽高校教諭）

名古屋　Now and Then

授業と併行して1月19日から2月23日まで講師養成セミナーをしていたこともあって3学期が流れるように過ぎ，4月8日の開講式まで名古屋のGDMクラスは春休み，この3月で名古屋Yの講師であった増田るみ子さん，岡田須磨子さんがおめでたのためやめて，この1年間新人講師としてGDMを勉強してきた小池さん，太田さんもYを離れ就職した。4月からは，水谷さん，小笠原さん，酒井さん，高須さん，都築さんの5人が新しく講師として名古屋グループに加わる，学校で入学式があって卒業式があるのと反対に，毎年何人かの経験者を送り出し，新人講師を迎え入れることがくり返される。News Bulletin No.30の片桐ユズルさんのことばを借りれば，「……かえってコミュニケーションが活発になって古い人も自分の穴にとじこもってはいられないから幸か不幸かわからない」にしても，常に自分の穴の外にある情報を見逃さず敏感に捉えるアンテナを持ちつづけたいと思う。名古屋では毎月1

認識の喜びを感じさせるＧＤＭ

加藤直子

今，私はAntoine de Saint Exuperyの The Little Prince（英語訳）を読んでいる。general とparticular の視点から見て私なりに興味をもつ箇所もあるが，それについては別の機会に書くとする。

15番めの話について。星の王子さまが訪れた６番めの星は20人も30人もの人がいられないほどの小さな星のようだ。そこに地理学者がたった１人で住んでいる。王子さまが地理学者に，この星には海，山，町，川，砂漠などがあるかどうか尋ねる。すると地理学者はこの星には地理学者である自分が１人いるだけで探検家がいないからわからないと答える。地理学者は，探検家の話を吟味して記録するのが重要な仕事だから探検家のように歩きまわることはできないという。この話にでてくる地理学者は探検家の話，すなわち間接的経験のみに頼って仕事をしている。だから，遠くから来た探検家の話の記録はしても，小さな自分の星すら探検していない。

この地理学者はなぜ自分で探検しないのだろう，奇妙な人だなと私は思った。しかし，思いかえしてみれば，私自身この地理学者のように，自分で直接的な経験を得るよりも間接的に得た知識に満足する傾向があるのかもしれない。もし先生自身が新しいことを知る大きな喜びを感じなければ，生徒には伝わらないと思う。それには，いつもいつも，よく整理された知識や技術のみを得ようとしないで，もっといろんなものが混りあった生の材料から自分なりに知識や技術をつかむことが必要だと思う。

ＧＤＭの特色のひとつは，生徒がsituationから自分で法則をつかむ喜びを感じることだ。説明を聞くのではなく，自分で考え，みつけるところによさがある。生徒が直接経験から学ぶ喜びを味わうような授業にしたい。

探検家の話も記録するし，また，自分の足で探検して実際に見ないと気がすまない。私は，ＧＤＭにかかわっている人々のそのような態度が好きだ。

（名古屋ＹＭＣＡ講師）

Naomi Saito

回勉強会でBook Report を読けているが，この勉強会でも新人講師と一緒にＧＤＭに直接関係する例えば室さんの“Basic English As A Sorting Machine”から始めて片桐ユズルさんの「意味論と外国語教育」を読む一方で広く英語や教育に関連する「ことばの魔術」「身ぶり言語の日英比較」「甘えの構造」などの本を読んだり，16のBasic verbs のroot sence を調べたりしてその手がかりをつかもうとしてきた。名古屋では新人は初年度はClass obseruation をすることになっているし，授業後も必ずmeeting をするようにして，片桐ユズルさんのことばで「安全運転」が行われていることになるかもしれないが，それがone pattern になって，出来上ったレールの上しか走れない汽車にはなりたくない。また同じ安全運転にしてもコンピューターじかけで組みこまれた反応だけしかできないのでなく，臨機応変の処置がとれる勉強を名古屋で目指したい。

あの人はいま，どうしてる？

～近況を語る～

渡辺せつ

ＧＤＭの歴史を語るのは丁度神話から日本史を語るように，ミス・チャペルとの出会いの神話から書きたい程，もうそんな昔の事になる。その神話を語るのは又の事にしよう。数年後，先生を紹介してほしいと頼まれ私は吉沢，阿江両氏を拝み倒した。ある日彼女達は氷を一貫匁風呂敷に包みポタポタ滴をたらしながら私の家に喘ぎ着いた。「アー暑い。氷を食べよう」と言って。私は派出婦会々長の如く「御苦労，御苦労」と言う始末。吉沢氏一念発起してハーバード大学へと洋行する。その才能と努力により今日の優秀なる皆様が生れた。

英語からはすっかり引退した私が，孫娘と友達数人を5年程前に教えた。彼女達は熱心でapple tree のbefore, after の所までこなして中学生になり，英語は得意であるそうだ。ところがである。その弟の5年生と4年生，その友達合せて7人の腕白小僧を教えるはめとなり，老女は今悲鳴を上げている。「コラ！ボクシングの教室じゃ無い！　人の言ってる時にも聞いていなさい！」と止むなく日本語で怒鳴る。「変な四国だナー，三浦半島が大き過ぎるよ」とガヤガヤ。「あゝ教祖ミスチャペルは先生の画は下手な程子供が興味を持つといみじくも仰せ給うた」とそれらの言葉は無視して授業を続ける。かくて，吾がひかり号は無惨や瀬戸内海をis going。「ワーイ，海ん中だ」又も無視してThe train went to HAKATA．坊主達は大喜びである。帰りは「ハイ，ハイ」と手をあげるので順に運転手になり，will go, is going, went と山陽線は迂回して無事陸路を岡山へ大阪へ名古屋東京へと行く。

聞けば今の落ちこぼれ高校生の中にはbe動詞やpronounも使いこなせないのがいるとか。わが腕白小僧達は，いつの間にかそれはマスターしているようだ。

はるかなるカナダのチャペル先生よ，御身のあの昔日の根気良さに，我れ続かんかな。

（住所〒176 東京都練馬区豊玉北4～8）

溝口寿美

みなさん　こんにちわ！（と書いても，私を御存知の方は少ないかもしれませんが）

5年前，長女を出産するために，ＧＤＭの研究会や職場から離れました。ただ今，2人の子供の親となり，毎日育児に追われております。

ＧＤＭの教授法を勉強してきたなかで，教えようとしている事がらの選び方，とらえ方与え方などの具体的な手法が強く私の心に残りました。そこで，これらの事を自分の子供を育てていくうえで，生かされないだろうかと思いながら子供に接してきました。たとえば「あつい」という形容詞を，子供は次のような順序と経験で覚えました。物を食べるということから『ミルクがあつい』次に，お風呂に入った時，いつもより『お湯があつい』次に，夏になり『外はあつい』これは，ほんの一例ですが，子供が学んでいく過程をみることは，とても楽しいものです。

もうしばらくしたら，また，みなさんの仲間に加えてもらい，今，経験していることを生かしたいと思っています。

高橋美智

ＧＤＭは私の英語学習の原点です。ＩＣＵで吉沢女史から英語教授法の講義を受けたのが，そもそもＧＤＭとの出合いです。以来日本の英語教育をいつも批判的に，建設的姿勢で見てこられたのもこの出会いからと感謝しています。ルーテル英語学校の講習にまだ大学に在学中に出させていただきました。卒業して4年目にやっと学校に勤めることができました。再び大久保の英語学校の夏期講習に行きました。（今から18年前のこと）

私立の女子中学生にＥＰを使って約10ヵ月程やってみました。吉沢女史が素晴しいデモもして下さいました。それなのに，例会での私のデモは散々でした。厳しい批判は良い勉強になりました。(go とcome のところ)

亡くなった樋口先生から今の学園にお誘いを受けたのもＧＤＭの縁からです。男女中学生に実験クラスを1年間やらせていただきました。厚生年金会館での公開講演会のデモもうまく行きませんでした。学園発行の「中学教育研究」に書いた報告を樋口先生が読まれて，「一人で孤立させないで，もっと応援してあげるべきでした。」とおっしゃったのを覚えています。亡くなった後，男性上位の教師集団で英語科主任を勤めました。樋口主任コンプレックスを克服するのに10年位かかりました。

中学から高校に移って7年になります。御殿場のセミナーで新しい会員の方たちとエネルギーを貯えました。東京ＹＷＣＡの夜間クラスを1年間担当させていただきました。例会のデモでは，「書かせ過ぎ」とのご批判をいただきました　全くその通りだと深く反省しました。

高校英語は受身人間をつくっているようです。何とか「自己表現のできる人間を育てたい。自主的英語学習を身につけさせたい」と願って，スピーチだエッセーだとわめいています。そんなときＧＤＭが私の心のよりどころになってくれています。

（玉川学園高等部勤務）

藤井増子

『アンヨッ』と1才4ヵ月の娘が椅子の足をさわっつ言うのにハッとして，自分がクラスでits を導入していた時の事を想い出し，又教えもしないのに娘のセンスの良さ(?)に感動したりしています。結婚してＧＤＭから離れて3年，二月に次女が生れ育児と家事に追われております。お父さんは？と聞けばアッチおじいちゃんは？アッチ!!　おばあちゃんは？アッチ!!!とドアの方やら窓の外を指して答える娘に「There」と心の中で叫ぶ自分を感じ，お母さんは？と聞きながら心の中でコッチと言うのか？ココというのか？何と言うだろうと胸をドキドキさせれば「アッタッタッ…（在った)」とかけ寄って来て胸が熱くなったりの毎日です。ＧＤＭで学んだことが，育児でも，どんなに生かされていることか！今もＧＤＭニューズを読んで血が騒ぐ(?)ことも度々ですが当分は娘達を相手に育児ＧＤＭで頑張りたいと思っておます。

にゅうず

☆　小高一夫さんが，British Council・文部省の関係で英国に3ヶ月間留学。

☆　名古屋の増田るみ子（旧姓内木）さん，広島の迫田久美子さんがおめでたです。

☆　雑誌“宝島”2月号にＧＤＭの特集記事あり。

Summer Seminar, 1979 のお知らせ

入門期の英語教授法

入門期の英語指導に有効な技術 — situation を活用して，先生はあまりしゃべらず，生徒の発表力をそだてることを中心にすえながら，四技能を平均してのばし，同時に教師も高度の thinking in English の習慣を身につける技術 — Graded Direct Method の正しい方法を研究してみませんか。

各方面から注目されている当研究会のサマー・セミナーを涼しい富士山麓の御殿場で開きます。ＧＤＭの方法で実際に英語を習っている子供たちの実験クラスを見学したり，実習しながら，討論の積み上げによって理論をふかめ，わたしたち自身もいっしょに育っていこうと計画しています。

とき：　1979年8月17日（金）　～　21日（火）　4泊5日

ところ：日本ＹＭＣＡ同盟東山荘　静岡県御殿場市東山　TEL　0550(3)1133

講師：　伊達　民和（大阪府立羽曳野高校教諭・発音クリニック）
東山　永　（ＧＤＭ鎌倉グループ代表）
片桐ユズル（京都精華大教授）
片桐ヨウコ（京都ＹＭＣＡ講師）
升川　潔　（国際基督教大助教授）
箕田　兵衛（東京都港区立赤坂中教諭）
村上　光久（金蘭女短大助教授・発音クリニック）
中郷　安浩（大阪市立大助教授・発音クリニック）
根古屋　常雄（千葉大付属中教諭）
小川　和子（ＧＤＭ鎌倉グループ講師）
山田　初裕（東京都立向島商業高校教諭）
吉沢　美穂（国際基督教大講師・ＧＤＭ研究会代表）

内容：　(a)　Theory
(b)　Class Observation
(c)　Training
(d)　Discussion
(e)　発　音　Clinic
(f)　Recreation

※　Class Observation　ではＧＤＭで授業している小学生のクラスを実際に見学します。

受講資格：英語教師または英語を教えることに興味があり，このセミナーに全期間参加できる人

定　員：　一般セミナー……この方法について初めて学ぶ人（60名）

定　員　　中級セミナー……ＧＤＭセミナーの経験がある人（30名）

上級セミナー……この方法による授業経験が豊富で，より深い研究を希望する人（20名）

受講料：　申込金　Ｙ3000　　受講費　Ｙ20,000

宿泊料：　25,000　（4泊5日食事つき）

教　材：　English Through Pictures, Book 1（Ｙ 700）
Teachers' Handbook for English Through Pictures　（Ｙ1700）

申込先：　〒 550　大阪市西区土佐堀1丁目5－6
大阪ＹＭＣＡ英語学校　ＧＤＭセミナー係　Tel 06－441－0892　内線 240 番

しめきり：　7月31日　ただし，定員に達ししだいしめきります。

編集後記：　今回は，かつてＧＤＭで活躍した人たちの近況をのせてみました。例会には顔を出さなくても，ＧＤＭの精神を忘れずにがんばっていることはうれしいことですね。

また，室　勝さんが，“Basic のむずかしさ”ということで，書いていますが，勉強すればするほど，むずかしさが身にしみてきます。　（田幸　徹・みか川嘉孝）